

赤ちゃんとおぼう (ワークシート)

あなたには、自分より年下の弟や妹がいますか。兄弟のいない人は、今まで自分より小さい子供や赤ちゃんに触れたり、遊んだりしたことがありますか。ほんの少し前まで、あなたも赤ちゃんだったよね。赤ちゃんに触れたり、一緒に遊んだりしてみたいと思いませんか。今日は、赤ちゃんに触れたり、遊んだり、さらにお母さんと赤ちゃんの様子も観察してみましよう。また、自分と家族との関わりについて考えてみるのもいいですね。その中であなたはきっと、たくさんのことを感じて発見するでしょう。

ワーク
1

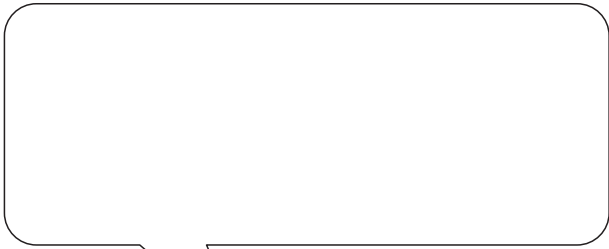
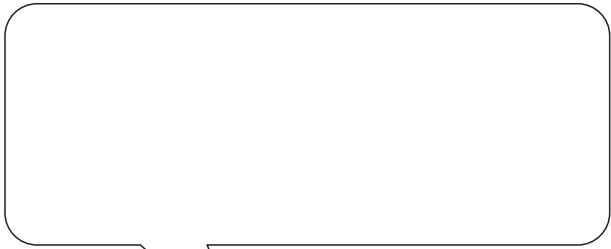
部屋にいる人たちに挨拶をして、遊んでいる親子の中に入り、まず自己紹介をします。次に赤ちゃんの名前と年齢（○歳○ヶ月）を、お母さんに教えてもらいましよう。

①どんな自己紹介をしましたか？

②赤ちゃんの名前と年齢は？

ワーク
2

お母さんが、赤ちゃんにどんなことを話しかけているか、耳をかたむけてみましよう。あなたは、赤ちゃんにどんなことを言ってあやしたり、遊んだりしますか？どんなふうになると、赤ちゃんは怖がったり泣いたりせずに、喜んでくれますか？



ワーク
3

お母さんに、今どんな気持ちで赤ちゃんに接しているか、聞いてみよう。



ふりかえり

- ① 今日、赤ちゃんと遊んだり、お母さんの様子を見たりして、どんなことを感じたり、発見したりしましたか？

- ② あなたは、赤ちゃんを「かわいい」と思いましたか？それとも「めんどくさい」と思いましたか？

- ③ また赤ちゃんと遊びたいと思いますか？今度は、どんなふうにして遊ぼうと思いますか？

1 本時の目標

子育てサークル等^{*}を訪問して、赤ちゃんに触れたり一緒に遊んだりして、赤ちゃんのかわいさやいとおしさ、自分より幼い命への愛情を感じたり、気付いたりできる。また、親子の様子を観察することで、母親や家族の関わりについて考えることができる。

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
赤ちゃんに触れたり、遊んだり積極的に関わろうとする。	赤ちゃんの関わり方について考えている。	赤ちゃんをいかに泣かさずに喜ばせて遊ばせるかを工夫することができる。	愛情を持って幼い命に接することの大切さと母親の役割について気付き理解する。

3 展開例（時間：45分）

時間	児童の活動	教師の働きかけ（○）・評価（☆）
5	○児童は、部屋の中のグループ内で自分の自己紹介をする。お母さんに赤ちゃんの名前と年齢を紹介してもらおう。（ワーク1）	○事前指導をしておいた児童に、自己紹介をさせ、赤ちゃんと一緒に遊ぶお願いをする。 ○赤ちゃんに関心を抱きすぎたり、玩具に興味を持ちすぎたりするなど、赤ちゃんへの危険がないように見守る。
25	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習課題 赤ちゃんとおぼろ</div> ○赤ちゃんに触れたりあやしたりする中で、どういうふうにすれば赤ちゃんは泣かずに喜ぶのか考え、親子の関わりを見ながら、自分も工夫して遊ばせてみる。 ○お母さんは、赤ちゃんにどのように接したり、声かけしているかに注意して観察する。（ワーク2） ○親子にお礼とお別れの挨拶を言う。	○児童に、赤ちゃんが怖がらないように優しく接するよう声かけをする。 ☆赤ちゃんに触れたり遊んだりし、親子の様子を観察する中で、年長者として赤ちゃんとの関わり方を考え、学ぼうとしている。（関心・意欲・態度） ▼努力を要する児童への手だて →友達の様子を見て、もう一度工夫して赤ちゃんに接するよう促す。 ○児童が静かに退席するよう指示する。
10	○部屋の別の場所で、今日赤ちゃんとおぼろで感じたことや発見したことを忘れないように、メモに書いておく。	
5	○学校へ帰って、ふりかえりを記入する。	

^{*}事前準備として、近隣の子育てサークル等で事前に児童数と見学場所の広さに合わせ調整し、見学許可をとる。

4 課題設定の理由

- 昨今の小学生は、テレビなどで赤ちゃんを見ることはあっても、赤ちゃんに直接触れたり、遊んだりする機会が少なくなっている。先日こんなこともあった。とある場所で、子供たちが赤ちゃんの写真に落書きをし、ナイフを刺して血が出ている絵を描いて面白がっていたのだ。そのような場面からも、小学校低学年のうちからぜひ赤ちゃんに触れ、遊ぶ機会を設けるべきだと感じた。赤ちゃんと接する経験を通して、自分より幼い者に対して優しく接することの必要性や、いとおしさ、かわいさに気づき、愛情を抱く事をねらいとしたい。さらに、赤ちゃんとその親の様子を観察することで、自分自身も家族のもとで大きくなってきたことに気付いてくれるよう、本課題を設定した。
- 20年前と比較して、現在の親の半数以上が、親になる前の育児経験を持たなくなっているという。小学校低学年から赤ちゃんと直に触れあう体験は、その児童が将来親になったときに、我が子への虐待防止につながるのではと考える。そのためにも、赤ちゃんに触れあう体験は、一度と言わず何度も必要だろう。

※「子育てサークル等」…各市町村子育て支援センター（保育所併設型）公立児童センター、公民館、さいたま市のびのびルーム、地域で実施している子育てサークル等のこと。